

【量子科学技術関連】未来社会を見据えた先端基盤技術の強化

資料4-6-1
 科学技術・学術審議会
 研究計画・評価分科会
 (第62回) H29.8.21

研究開発計画:

大目標

人々に豊かさをもたらす「超スマート社会」の実現に向けた取組を強力に推進し、世界に先駆けて実現するため、新たな価値創出のコアとなる基盤技術について強化を図る。

大目標達成のために必要な中目標

内外の動向や我が国の強みを踏まえつつ、中長期的視野から、21世紀のあらゆる分野の科学技術の進展と我が国の競争力強化の根源となり得る量子科学技術の研究開発及び成果創出を推進する。

	2017 (FY29)	2018 (FY30)	2019 (FY31)	2020 (FY32)	2021 (FY33)	2022 (FY34)	2023 (FY35)	2024 (FY36)	2025 (FY37)	2026 (FY38)	2027 (FY39)	2028 (FY40)
	前				中 (注)				中			後
高いインパクトを与え得る技術領域を対象としたロードマップを踏まえ、量子科学技術分野の研究開発を推進	光・量子飛躍フラッグシッププログラム (Q-LEAP) <ul style="list-style-type: none"> 量子情報処理 量子計測・センシング 極短パルスレーザー 次世代レーザー加工 											優れた研究成果の創出状況(論文被引用数等)

(注)4年目の中間評価はステージゲート評価を予定

今年度審議する研究開発課題